

就職体験談

卒業生氏名：イーイーテュ

卒業年度：2026年3月

卒業学科：中部学院大学短期大学部 社会福祉学科

ミャンマーから日本へ来たばかりの頃、私は介護を「手伝えること」だと思っていました。しかし、中部学院大学短期大学部での学びは、その考えを大きく変えてくれました。日本の介護で最も大切なのは、相手の心に寄り添うことです。実習中、ある利用者の方が私の目を見て笑ってくれたとき、私は技術よりも先に「心がつながる喜び」を知りました。その瞬間、私は介護のプロとして生きる決意をしました。

もちろん、道は平坦ではありませんでした。特に介護の専門用語は難しく、日本語の壁に何度もぶつかりました。「もっと早くから日本人の友人と勇気を持って話していれば」と後悔した夜もあります。しかし、そんな私を救ってくれたのは、親身な先生方と、共に汗を流した友人たちでした。彼らと励まし合った時間は、今の私の大きな自信になっています。

アルバイトは、私にとって最高の教室でした。現場で利用者の方からいただく「ありがとう」という言葉は、何よりも温かく、私の疲れを吹き飛ばしてくれました。また、奨学生として受けた支援は、私から経済的な不安を取り除き、挑戦する勇気をくれました。このサポートがなければ、今の私はありません。

この二年間で、私は困難を乗り越える強さを手に入れました。これから日本に来る皆さんに伝えたいのは、「勇気こそが未来を開く」ということです。介護の仕事は、人を幸せにする、とても素敵なお仕事です。日本語が完璧（かんぺき）じゃなくても大丈夫です。一番大切なのは、「相手を思いやる優しい心」です。自分を信じて、あなたの笑顔でぶつかってみてください。中部学院大学短期大学部には、あなたを成長させる素晴らしい出会いが待っています。自分の可能性を信じて、一歩踏み出してください。